

7/18 火曜

# 安倍氏「国葬」疑問の声相次ぐ

## 地方紙が社説で批判

岸田文雄首相が安倍晋三元首相の葬儀を「国葬」で16日付の地方紙で批判・疑問する社説が相次ぎました。

琉球新報は、「国葬」という元首相の葬儀を「国葬」で行なうこととした政府方針を発表した」とをめぐり、16日付の地方紙で批判・疑問する社説が相次ぎました。

琉球新報は、「国葬」という元首相の葬儀を「国葬」で行なうこととした政府方針を発表した」とをめぐり、16日付の地方紙で批判・疑問する社説が相次ぎました。

よりて失効しており、「根拠法がなく定義もない。国会で説明もせずに公費が使われていいのだろうか」としています。

京都新聞は、改憲を狙う首相に対して、「(安倍氏の)遺志を引き継ぐ形で憲法改正に意欲を示す姿勢と軌を

ついで、「采國と軍事的連帯を求めるものにはかなりを発表したい」とをめぐり、「なし」と指摘。戦後、論議を進めたいことを采政の死を政治的に利用して、府関係者が高く評価する（19条）、政教分離（20条）を定めた現行憲法の制定だ

た。

新潟日報は、「森友・加計学園や『桜を見る会』を巡る問題では、説明責任を尽くさなかった。真相は依然として闇の中だ」とし、「桜を見る会」に関しては、国会でのその答弁を積み重ねた。国会軽視の姿勢も忘れてはならない」と批判しました。むしろ、国葬とするなど、「安倍氏の貞の側面に向き合はず、ふたをしてしまおう」とつながる「広く国民の理解を得られない」と指摘しました。